

「地域における理工系女性人材育成事業の効果的な実施方法に関する調査研究」概要

目的： 地方公共団体と連携して、地域における理工系女性の人材育成と定着を目的とし内閣府が実施した調査研究事業。本事業を通じて、「生徒や保護者への効果的な周知方法」や「人材育成に資するプログラム」などの情報を収集し、地方公共団体が地域の実情を踏まえて類似事業を実施できるよう、本事業から得られた知見を報告書にまとめた。

実績

事業プログラム

・**対象/人数：** 女子児童・生徒とその保護者/各50名程度

・**実施箇所：** 全国10都市（応募自治体から選定）

NO.	実施都市	会場	実施日
1	青森県弘前市	弘前文化センター	9/1（日）
2	群馬県桐生市	桐生市市民文化	9/21（土）
3	長崎県長崎市	長崎市民会館	10/5（土）
4	岩手県花巻市	ホテル紅葉館	10/14（月・祝）
5	京都府舞鶴市	京都府舞鶴市赤れんがパーク	11/4（月・祝）
6	福岡県古賀市	リーバスプラザこが交流館	11/10（日）
7	愛知県刈谷市	刈谷市総合文化センター	11/16（土）
8	長野県上伊那広域連合	長野県南信工科短期大学校	11/23（土・祝）
9	鳥取県琴浦町	琴浦町赤碕地域コミュニティーセンター	12/1（日）
10	千葉県木更津市	木更津工業高等専門学校	12/15（日）

プログラム

基調講演
(理工系分野で活躍する
ロールモデルの紹介)

内閣府「STEM Girls Ambassadors」による講演、「なぜ理工系を選択したか」「どのように壁を乗り越えたのか」等、講師自身の体験談に加え、理系の興味・関心を喚起する内容が語られ、参加者からの質疑にも対応。

**理工系女子が
活躍する職場紹介**

地元企業に勤務されている女性研究者・技術者より、企業紹介、自身の経歴や職務、育児と仕事との両立策を説明頂いたのち、参加者からの質疑にも対応。

実験教室

地元企業や地元大学の研究室の企画による、全員参加の体験型科学実験プログラム。
(地元大学の学生や若手技術者が実験助手として関与頂き、参加者の相談相手にもなられた)

事業参加者へのアンケート（イベント参加の効果検証）

当日アンケート

2～3ヵ月後

フォローアップアンケート

実施方法：用紙記入

- ・本事業を知ったきっかけ
- ・本事業の参加理由
- ・各プログラムの学校種別ごとの満足度
- ・事業参加による関心度の違い

実施方法：WEBアンケート

- ・(生徒)印象に残っているプログラム
- ・(生徒)事業参加後の学習への影響
- ・(保護者)事業の参加後、内容について子どもと会話したか
- ・(保護者)子の進路について調べたか

事業終了後のアンケート集計結果

当日アンケートから得られた回答（周知手段）

案内の有効手段は「学校経由での通知」と「親の勧奨」

- ・児童・生徒は学校から配布されたチラシと家族からの勧めが出席の決め手。
- ・保護者への案内は、地方公共団体発信の広報にも一定の効果あり。

①「児童・生徒」への質問 「事業を知った経緯 上位5項目」

学校で配布されたチラシ	家族から聞いた	友人から聞いた	新聞記事	自治体発行の広報誌
61.3%	28.3%	7.5%	4.2%	4.2%

②「保護者」への質問 「事業を知った経緯 上位5項目」

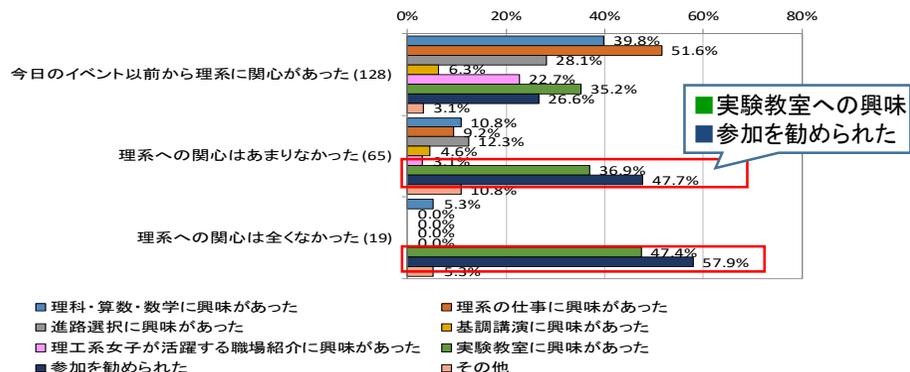
学校で配布されたプリント・チラシ	家族から聞いた	自治体のホームページ	自治体発信のSNS	自治体発行の広報誌
54.3%	11.6%	7.9%	7.9%	7.3%

当日アンケートから得られた回答（無関心層の参加理由）

理系への関心が低い生徒への事業参加の動機付け

- ・教員や保護者等から「参加を勧められた」との回答が最も多い。
- ・実験教室のプログラム名や内容の工夫で関心を呼び起こせる。

「児童・生徒」への質問 理系への関心別に聞いた、イベントへの真の来場目的



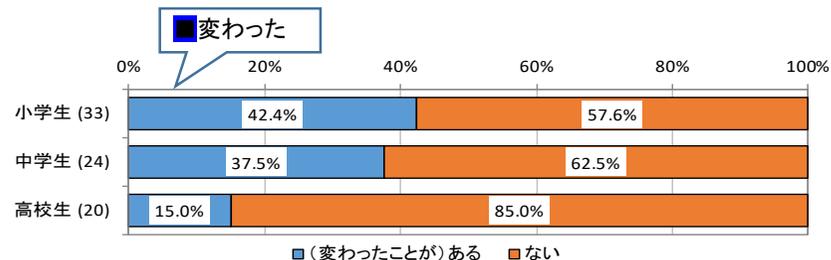
フォローアップアンケートから得られた回答（主なもの）

勉強等の行動を促す効果のあった学校種別

- ・年齢が低いほど行動を促す効果が高い。

「児童・生徒」への質問

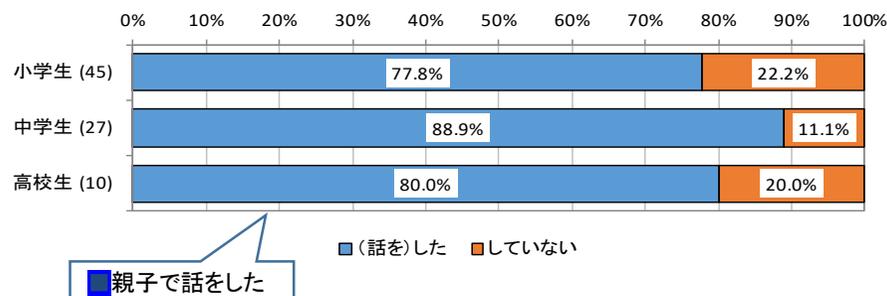
「当該事業に参加して以降、勉強・学習に関する考え方や行動で変わったことはありますか？」



親子での進路についての会話を促す効果

- ・本事業の参加が、親子での理系進学について会話の契機となった。
- ・子の年代を問わず、参加者の7割以上が「(話を)した」と回答。
- ・特に進路の方向性を左右する、中学生の保護者では88.9%と高い。

「保護者」への質問 本イベントに参加したことについて家庭の会話の有無



地方公共団体における効果的な事業実施の方法

効果的な広報・運営

教育委員会や学校への要請（参加の呼びかけ）

- ・学校にて事業の案内チラシの配布を依頼する場合、**事前の教育委員会への説明(協力要請)が必須。教育委員会より学校に依頼頂くと効果が高まる。**
- ・事業案内チラシを作成する際は、**学校で配布できる体制が整う時間を十分に考慮し**、さらに協力団体とプログラムを確定させるだけの余裕をもったスケジュールを組むことが必要。
(学校でチラシ配布を行う前には、校長会での説明が必須の地域もあり)
- ・学校教員から生徒への参加を促していただくためには、学校向けに**事業目的や効果等を記載した資料を作成し、自治体職員の方による積極的・直接的な働きかけが有効。**

協力団体等との連携方法

- ・実験教室主催や事例紹介先の企業などの協力先選定には、**商工部門等の自治体内の組織や、地元経済団体等との連携(協力依頼)が有効。**
- ・協力先とは**密な情報連携を図り、参加者の構成に合わせたプログラム内容の工夫などの配慮が必要。**
(女性の登壇や、参加者の年齢に合わせた実験プログラムの準備等)

実施日の決定方法

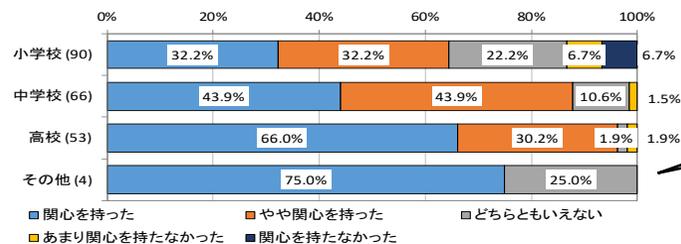
- ・実施日の確定においては、**運動会など地域の児童・生徒を対象とした行事と重ならないか**を確認する必要がある。
(運動会と事業開催日時が重なり、参加主体が保護者となった地域もあった)

効果的なプログラム

プログラムの構成

- ・保護者向け、あるいは高校生・中学生向けの事業を行う際には、**基調講演のようにロールモデルを紹介するプログラムを中心とし、主な来場者が小学生の場合は、実験教室を中心とすると等、対象に応じたプログラム構成が有効。**

「基調講演への評価」（理系分野の進路選択に関心を持つきっかけとなったプログラム）



基調講演への評価は年齢が上がるほど高い

実験教室

- ・「**実験前の明解な説明**」「**参加者自らが手や体を動かす**」「**実験結果がはっきり見える**」などの要素を含んだ**体験型の実験教室**の評価が高い。
- ・**地域性の高い題材（課題や歴史）を用いた、ストーリー性のある実験プログラムの提供により、地元の大学の地域貢献や企業価値を認識される。**



(実験教室の一例) 群馬県桐生市の実験教室「渡良瀬川の銅を調べよう」の様子

- ・**実験の講師等や助手を若手の女性が行うことで、参加者にとって、身近なロールモデルとのコミュニケーションを取れる機会にもなる。**
(具体的な進路相談の機会にもなった)